



学びの庭

学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図り、
児童一人一人のよさや可能性を伸ばす。

〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町491番地 電話 055-233-2447 FAX 055-233-2451 E-mail: tamamoro-e@kofu-ymn.ed.jp

創立 明治5年
1872年

令和3年(2021年)7月20日

発行責任者 校長 山本英寿

子どもたちの成長を感じられた1学期

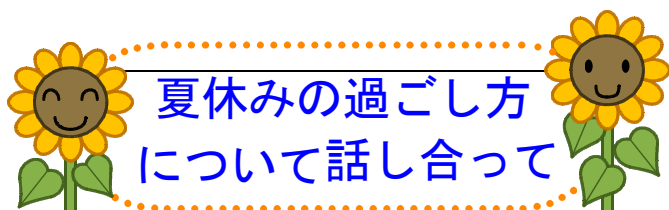
涼しげな風鈴の音が聞こえる季節となりました。新年度がスタートして早4か月、本日の終業式をもって71日間(1年生は72日間)の1学期が終わりました。

入学式、春の校外学習、林間学校、フェスティバルたまもろなど、様々な学校行事や児童会活動、また、日々の学校生活の中で子どもたちの成長を感じることができた1学期でした。特に6年生は最上級生としての自覚をもって、下級生のお手本となる行動や活躍が見られました。6年生の影響を受けてか、どの学年の子どもたちもそれぞれ学習に生活によく頑張ってきました。

保護者の皆様に、PTA活動はもとより、本校の教育活動へのご理解、ご協力をいただきましたことが、子どもたちの成長につながりました。感謝申し上げます。



〈一年生の教室掃除を手伝う6年生〉



子どもたちが楽しみにしている夏休みに入ります。この夏休みが子どもたち一人一人にとって有意義なものになるように、学校では1学期の生活の様子や学習の定着の様子を振り返り、各学年の実態に応じて夏休みの過ごし方について指導を行いました。

学習課題、健康の保持・増進、交通安全などの指導を行いました。子どもたちの生活の場が「学校」から「家庭・地域」へと移る夏休みは、家庭での指導が、より大切になります。子どもたちといっしょに夏休みの過ごし方について、ぜひ時間をつくって話し合ってください。



子どもたちにとって、長い夏休みは普段できない様々な経験・体験をする絶好の機会です。保護者の皆様にとって、成長しつつある子どもたちの姿を改めて実感できるよい機会となります。コロナ禍の状況ではありますが、子どもたちが有意義な体験活動や読書に取り組む等、子どもたちが興味をもつことに挑戦できるよう励ましてほしいと思います。また、子どもたちに家族の一員という自覚をもたせるとともに、これまで以上に親子の相互理解を深め、絆を強めていただきたいと思います。夏休み明けに、一段とたくましくなって元気に登校してくる子どもたちに会えることを楽しみにしています。

PTA奉仕作業のお知らせです。

8月21日(土)の早朝、PTA活動の一環として環境整備作業を実施します。例年、親子奉仕作業として行ってきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、PTA評議委員と教職員のみで行います。作業内容は、普段の清掃で子どもたちの手が届かない窓、さん、蛍光灯の清掃や、トイレなどの清掃作業です。2学期に、子どもたちがよりきれいな環境で学校生活を送ることができますよう、ご協力をお願いします。

学校だよりの
HP版をご覧
いただけます。



授業改善をめざして～論理的思考力の育成～

昨年度から小学校では、新しい学習指導要領が実施され、「何ができるようになるか」という観点から、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」をバランスよく育てていくことに大きく変化しました。そして、その資質・能力を育てるために、特別な教科道徳や外国語教育、プログラミング教育など新たに導入されたものなど、教育の充実が図られています。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が重要視されています。本校では、今年度の校内研究のテーマを「自ら学び、考えを深めることができる児童の育成～論理的思考を養うための指導法の工夫～」とし、取組をスタートしました。子どもたちが、「なんで?」「そうか」「どうしたらいいのかなあ」「こうしたらいいと思うよ」「次はこうしてみよう」など、自分一人で、また友だちと話し合っ、考えが深まったり、広がったりして変容や高まりが見られる学びのある授業をめざしています。6月には、山梨大学茅野政徳准教授をお招きし、国語の授業づくりについての学習会を開催しました。また、7月には山梨大学早川健教授をお招きし、算数の授業づくりについての学習会を開催しました。今後も校内研究の充実を図りながら、授業改善に取り組んでいきます。



〈算数の学習会の様子〉

●「自分大好き」な子供に育てるために ～自己肯定感を育む～

「日本の子供たちは、米中韓と比べて自己肯定感が低い」という記事を目にしました。自己肯定感とは、「自分が好き」「自分には良いところがある」、もっと言えば「自分には存在価値があり、世の中や、他の人にとって必要な人間だ」と思える気持ちです。こうした気持ちは、人間にとって、やる気を持って行動を起こしたり、様々な困難を乗り越えて生きていく際に、とても大切な心のあり方です。では、この自己肯定感を育てるためには、どうしたらよいのでしょうか。難しく考える必要はありません。日常生活の中で、ささやかな積み重ねを大切にしていきましょう。たとえば…

- ・スキンシップをとる。(高学年であってもハグする。頭をなでてやる。)
- ・一緒に食事(おやつ)をする。準備や片づけなども一緒にする。
(会話をしながら。)
- ・家事をしながら課題の音読を聞いてやり、一言ほめる。「この部分の読み方が上手になったね。」「登場人物の気持ちがよく伝わってきたよ。」…等
- ・割り当てたお手伝いをやってくれた時も、「ありがとう。助かった。」の一言を！
(「やって当たり前でしょ!」は禁句。少々難点があっても目をつぶる。)
- ・習い事やおけいこ事について、頑張っていることをほめる。
→練習や試合、発表会などを見聞きし、頑張りや努力をほめる。
- ・学校での様子を話題に！

⇒前の晩または当日の朝、「今日(明日)は、〇〇の授業で□□するんだね。楽しみだね。」

→帰宅後、「今日〇〇の授業どうだった?」等、具体的な声掛けを！

*上の子、下の子、皆同じように、それぞれの良さ・特性をきちんと強調して、声を掛ける。ほめる。

(結果だけでなく、過程も大事に。)

日々の小さな頑張りを見つけ、ほめ続けることで、子どもの心は変わっていき、自信や感謝の気持ちが生まれてきます。自信は困難に挑戦するたくましさや、感謝の気持ちは人を大切にする思いやりの心を育てます。つまり、「自分大好き」になれば「友達大好き」「家族大好き」になり、「学校大好き」「地域大好き」となり、よりよい社会へ…とつながっていきます。自己肯定感はその根本となる大切なものです。「子どもの良いところを見逃さずにほめること」「結果だけでなく、その子の小さな頑張りや努力をほめ続けること」を、学校でも取り組んで参ります。夏休みは、それをご家庭で高める最大のチャンスです。小さな成長を楽しみながら、愛情たっぷりに育てていきましょう。



〈いいところさがしBOX〉